

# 中部圏の交通ネットワークのさらなる充実に向けて

～「中部圏交通ネットワークビジョン」を踏まえた新たな視点～

7月27日(金)、中経連は総合政策会議において、社会基盤委員会(委員長:柘植副会長)として取りまとめた報告書「中部圏の交通ネットワークのさらなる充実に向けて」を報告、公表した。今後、中経連会員をはじめ、国や自治体、関係団体等に幅広く配布し、内容に関する認識の共有化や、さらなる議論のために役立てるとともに、各種要望活動の際には会員の生の声として活用していく。



## 報告書の概要

### 報告書作成の経緯

社会基盤委員会では、「中部圏交通ネットワークビジョン」(以下、ビジョン)を2016年4月に公表以降、講演会や要望等に活用してきた。昨年度には、国土交通省中部地方整備局幹部と社会基盤委員会の専門委員との間で「中部のインフラを考える意見交換会」を実施し、物流をはじめとした、具体的なインフラに対する必要性や期待、インフラ整備により新たに発生した、もしくは今後発生することが予想される渋滞などの課題、さらには老朽化や災害時の対策といった新たな提案をするなど、約1年にわたり活発に議論をしてきた。そこで今回、以下の二つの観点から「中部圏の交通ネットワークのさらなる充実に向けて」として取りまとめることとした。

- ①中部圏の交通ネットワークをさらに充実したものとするために、継続した議論、問題提起が必要との観点から、この意見交換会の専門委員側の生の声を代表意見として取りまとめた。
- ②ビジョン公表から約2年が経過し、道路や港湾の整備状況にも多くの箇所で進捗が見られることから、その進捗状況を示した。

### 報告書の内容

以下の4項目を中心として本報告書を構成している。

- ①ミッシングリンクが残る道路における企業の使用頻度や、道路計画がある地域のポテンシャルの高さ(名豊道路、浜松三ヶ日・豊橋道路など)
- ②インフラ整備に関する新たな問題提起(中勢バイパス、名古屋環状2号線など)
- ③老朽化・防災対策、次世代技術に関する言及
- ④ビジョン公表後のインフラの進捗状況

中部圏はものづくり産業の集積地であり、物流の効率化に資する交通ネットワークの充実や、ネットワーク充実による災害時のリダンダンシー確保、また新しいネットワーク周辺への企業立地が、さらなる地域経済の活性化のため必要となる。今後、本冊子の活用により、中部圏の優位性や魅力向上に寄与していきたい。

【問い合わせ:社会基盤部】

報告書の詳細につきましては、中経連ホームページ(<http://www.chukeiren.or.jp/>)をご覧ください